

# 伊達市立学校耐震化状況

令和6年4月1日現在

◎耐震化実施済み または 新耐震基準の棟(2次診断により耐震性があると判断された棟を含む)

学校名	区分	棟番号	構造	階	床面積	建設年	Is値	現在の状況
伊達小学校	校舎	1	RC	4	5,751	R6	-	新耐震基準
	校舎	2	S	1	432	R2	-	新耐震基準
	屋体	1	S	2	1,258	R1	-	新耐震基準
伊達西小学校	校舎	1	RC	3	4,508	H10	-	新耐震基準
	屋体	1	RC	2	1,258	H12	-	新耐震基準
関内小学校	校舎	1	RC	2	1,275	H4	-	新耐震基準
	屋体	1	S	1	760	H4	-	新耐震基準
東小学校	校舎	1	RC	2	1,669	S50	0.83	耐震性あり(2次診断)
	校舎	2	RC	2	987	S50	0.79	耐震性あり(2次診断)
	校舎	3	RC	2	298	S53	0.83	耐震性あり(2次診断)
	校舎	4	RC	2	1,184	R2	-	新耐震基準
	屋体	1	S	1	672	S50	0.74	耐震性あり(2次診断)
星の丘小中学校	校舎	1	RC	1	1,361	H17	-	新耐震基準
伊達中学校	校舎	1	RC	3	6,114	S57	-	新耐震基準
	校舎	2	RC	3	562	H06	-	新耐震基準
	屋体	1	S	2	1,330	S57	-	新耐震基準
光陵中学校	校舎	1	RC	3	2,908	S54	0.81	H21耐震補強工事
	校舎	2	RC	3	1,963	S55	0.74	H21耐震補強工事
	屋体	1	S	2	1,144	S54	0.75	H21耐震補強工事
大滝徳舜警学校	校舎	1	RC	2	1,640	H7	-	新耐震基準
	屋体	1	S	2	840	H7	-	新耐震基準

## 【用語説明】

### ○新耐震基準

昭和 56 年の建築基準法(施行令)の改正により、現行の新耐震基準が施行されました。新耐震基準では震度 6 強程度の地震で、部分的な損傷は生じるが、建物は倒壊しないことを要求しています。昭和 56 年 6 月 1 日以降に建築確認を受けた建物に対して新耐震基準が適用されています。

### ○耐震診断

耐震診断は、新耐震基準施行以前の建物について、地震に対する安全性を構造力学上診断するものです。診断の結果は  $I_s$  値等の数値で示されます。

### ○ $I_s$ 値

「構造耐震指標」のことで、建物が地震時にどの程度耐え得るかを判断するための数値です。数値の目安は次のとおりです。

0.3未満	大規模な地震に対して、倒壊または崩壊する危険性が高い
0.3以上0.6未満	大規模な地震に対して、倒壊または崩壊する危険性がある
0.6以上	大規模な地震に対して、倒壊または崩壊する危険性が低い

※大規模な地震…震度6強以上の地震

※国土交通省の安全性の目安としては $I_s$ 値を0.6以上としています。ただし、文部科学省では、学校としての特殊性と避難場所としての機能を加味し、安全性の目安として $I_s$ 値を0.7以上としています。

### ○耐震化優先度調査

耐震診断を実施する優先度を検討するため、文部科学省が定めた簡易な調査です。

### ○優先度ランク

耐震化優先度調査の結果を総合的に表した評価指標で、どの建物から耐震2次診断等を実施すべきか検討するために用いられるものです。診断着手の優先度が高い順に「優先度ランク①」から「優先度ランク⑤」の5段階に分かれています。

### ○耐震2次診断

柱・壁・コンクリート強度・鉄筋量等から建物の強さと粘りを推定する診断方法です。

### ○構造

RC:鉄筋コンクリート造, S:鉄骨造